

2016年1月10日

福音書からのメッセージ

聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

(ルカによる福音書 3章 22節)

教会では12月25日の降誕日の後、1月6日に顕現日を迎えました。そして大斎節までの期間を、顕現節として守っていきます。顕現とは辞書を引くと「はっきりと現れること、明らかにあらわし示すこと」とあります。特に神仏について、この言葉は用いられるようです。

したがって教会で顕現とは、神さまの働きがはっきりとした形であられることだということができます。ギリシア正教やロシア正教などの東方教会の中には、1月6日に三つの「顕現」を記念するところがあるそうです。その三つとは、イエス様の降誕、イエス様の洗礼、そしてイエス様の最初の奇跡と記されているカナの婚礼の場面です。それぞれにおいて、神さまの意志がわたしたちの中にはっきりと働き始めたことを祝うのです。

今日の箇所は、イエス様の洗礼の場面でした。福音書を読んでいきますと、「聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た」という記述があります。これこそまさに顕現なのです。つまり、神さまのみ手がわたしたちに見えるような形で伸ばされたということなのです。

イエス様は民衆の間で、洗礼を受けられました。洗礼者ヨハネは、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えていました。ではイエス様は、罪が赦されるようにと洗礼を受けられたのでしょうか。



そうではありません。イエス様が民衆の間にいるということ、そして神さまの恵みがイエス様を通してやって来たということが、大切なのです。

例えばわたしたちが、冷たいお風呂に入っていたとします。手足を伸ばすこともできず、ブルブル震えているだけ。そのようなときに、上の方から「温かくなれ、温かくなれ」といっくら言われても、わたしたちの体は冷え切ったままでしょう。でもそこに、とてつもなく熱い何かが入ってきたら。そしてその熱は決して冷めることがなく、天から与えられているものだとしたら。

もうわたしたちの体は冷えることはないと思います。外に出ても、また体が冷えたらいつでも戻ってきたらいいのです。

イエス様は洗礼を受けられました。それはわたしたちの間に、ご自身を通して神さまからの恵みをあらわすためなのです。わたしたちも洗礼を受けることで、その恵みにあずかることができるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>